

# 摘便クイーンのこと



絵 みねおみつ

おとし、ぼくが十一歳だった時、

「ここでは死ねないな」

と言ったのは父で、

「どこなら死ねるの」

ときいたのは母でした。

「ここ」とは、ぼくが生まれた東京都立川市で、「どこ」とは「ここ」から二十キロ西に引っ越してきて今暮らしているあきる野市戸倉のことだと思えます。

まだ五十歳になったばかりなのに、そんな暗いじいさんみたいなことを言ったり書いたりしてるから父さんの本は売れなくて貧乏してるんだよ、と言いたかったのですが、やめました。

近所のゴミ出しマナーがひどくなったり、三井とか住友

森 忠明

とかいう不動産会社の人が、「土地を売ってくれ」と、しきりに通ってきたことが転居の大きな理由でしょう。それと、「おれの先祖は東北の人間だったから、おれも山と川のある所に住みたいんだ」という父の願い。

「小物は山に住み、大物は町に隠れて住むって言うわね」母が少し冷たい口ぶりで言うのと、「おれはおまえみたいに大物じゃないからな」むすつとして、くびをたてに小さく振りました。

高齢者介護施設で看護師をしている母は、そういう働き場所があるならどこにでも行くけど、鷹明たかあきのつごうも考えてやって、と父に言いました。

立川にはイセタンやタカシマヤ、有名なお医者などがそろっていて、生活にはずいぶん便利な場所ですが、家が駅